

しょうけい館 ー戦傷病者史料館ー
移転整備 展示シナリオ案

令和4年3月

しょうけい館

1. 展示構成シナリオ（案）の位置付け	2
2. 基本計画骨子	3
3. 常設展示 展示構成シナリオ	5
4. ホームページコンテンツ基本構成	15

1. 基本設計 展示構成シナリオ（案）の位置付け

(1) 設計業務の実施状況

- 昨年11月の有識者会議での基本計画の議論を踏まえ、設計段階に移行して作業を進めている。
- 移転先の物件が未確定であり、移転先施設を特定し面積、階層、設備等の施設条件に応じた設計作業を開始することができないため、施設条件に依存しない領域の設計を進めている。主たる内容は、常設展示室の展示構成シナリオとホームページの基本構成（特に常設展示室のコンテンツの構成）である。

①常設展示室 展示構成シナリオ

- 現常設展示の展示構成は踏襲しつつ、開館15年を経て顕在化した課題の解決を展示構成シナリオで検討している。

②ホームページの基本構成

- 博物館のホームページとして必須となる項目（施設案内、催事案内、各種活動紹介、各種申し込みなど）は今後設計することとし、現在は常設展示の展示紹介部分のホームページコンテンツの検討を進めている。

2. 基本計画骨子

(1) 現有施設の課題と解決の方向性

1) 施設課題

① 戦傷病者の減少から不在の時代へ

② 来館者の若年化

③ ネットワーク型情報提供の遅れ

2) 移転施設整備の方針

発信力のさらなる強化

「施設」「ネットワーク」「人」を活用した発信



戦傷病者の労苦に触れる機会の増加
“伝える”から“伝わる”へ

資料の収集・保存・管理の着実な実施と活用



歴史的資料の散逸・劣化の防止
幅広く国民の利用に供し、研究や学習を支援

2. 基本計画骨子

(2) 展示計画の基本方針

① 若者世代に伝わる展示

- ・ 先の大戦の基本的な情報把握、理解なしに、そこで傷つき、病に倒れた戦傷病者の労苦を伝えるのは限界がある。個々の戦傷病者が受傷した戦地の状況などの個別戦線の詳細情報までは取り扱わないまでも、先の大戦の基本概要を提供することにより、戦傷病者の労苦の背景を理解できるようにする工夫が必要である。

② 所蔵資料を十分に活用できる展示

- ・ 収蔵した実物・図書資料を可能な限り多く展示することを実現する。

③ リアルとバーチャルを機能的に組み合わせた展示手法

- ・ 館内におけるリアルな展示と、ネットワーク上の仮想展示の2層の展示情報を用意し、いずれもが単独で成立する情報量・質を確保し構築する。
- ・ 特に常設展示はリアル展示とバーチャル展示の各々の特性に応じて展示情報を構成し、両者が相互関連し展示内容についての深い理解を獲得できる構成とする。

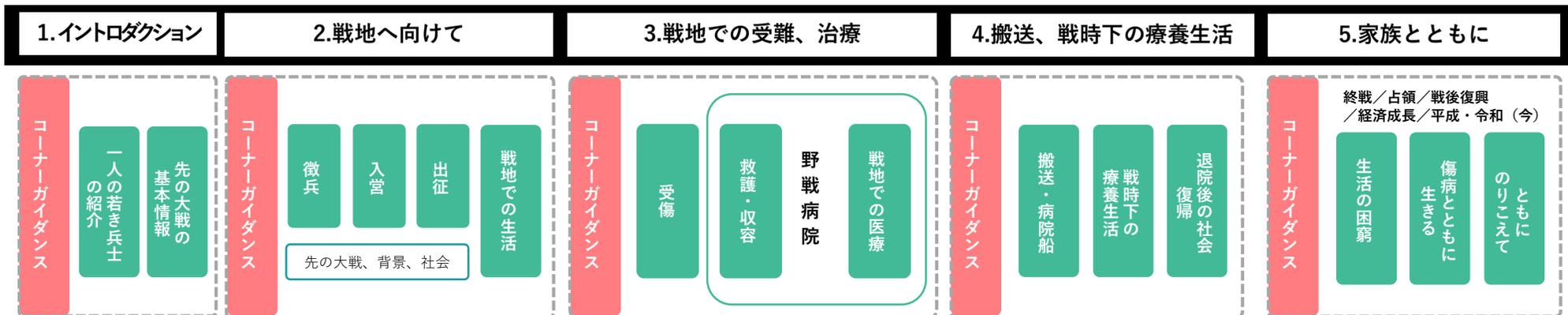
3. 常設展示 展示構成シナリオ

(1) 常設展示 展示構成

現施設展示構成



移転先施設展示構成



① 新たなコーナー区分とコーナーガイドナンスの新設

現状の展示構成の流れは踏襲しつつ、展示を新たな5つのコーナーに区分し、コーナー毎に背景情報などの展示内容の概要情報を提供できるコーナーガイドナンスを新たに設ける。さらに、コーナー毎に「ある兵士の軌跡」を紹介してストーリー性を持たせることで、来館者にとって実感が湧く展示を展開する。

② 「ある兵士の物語」の具体的表現の強化

現状は展示壁面に短く記載された文字情報しかない「ある兵士の軌跡」について、若い世代の来場者が、その若き兵士に自己を投影し「自分事化」しながら展示を見てもらえるように、若き兵士の具体的なイメージや物語をより具体的に表現する。

③ 画像による展示の追加

展示陳列部分の面積を大きく拡充することは困難であるため、実物展示品の陳列は現状展示からそれほど多く増やすことはできない。そのため、展示ケース内に映像ディスプレイを設置し、画像で収蔵品を表示することにより、収蔵品の展示活用を促す。映像ディスプレイは、資料映像やデータなども表示し展示解説にも利用する。

3. 常設展示 展示構成シナリオ

(2) 各コーナーで提供する概要情報

1) コーナーガイドンスでの提供情報



コーナーガイドンス①
傷ついた若き兵士の物語

太平洋戦争へと向かおうとする時代、統制下の暮らしが始まり戦意高揚が図られる。徴兵は名誉とされていた。その中でどこにでもいる20代の若者の徴兵から現在までの人生の物語である。
 などの、ある兵士のプロフィールと当時の社会的な概況を伝える。

コーナーガイドンス②
徴兵、戦地での生活

ある兵士は二十歳になり徴兵検査を受け、入営、出征そして戦地へと向かう。入営や出征は家族や地域から期待された。戦地では満足な食事もない過酷な日々が続く。
 などの、ある兵士の手記と当時の社会的な概況を伝える。

コーナーガイドンス③
受傷、治療

戦闘が激しさを増し、ある兵士は受傷し、野戦病院で麻酔もなく激痛に耐えながら切断手術をうけた。その後兵站病院へ搬送される。
 などの、ある兵士の手記と当時の社会的な概況を伝える。

コーナーガイドンス④
戦時下の療養生活

病院船で日本に搬送され治療を受ける。身体の傷が治り、治療が終わるとリハビリ訓練を行う。切断者には恩賜の義肢が支給され、社会復帰のためのプログラムが用意されていた。
 などの、ある兵士の手記と当時の社会的な概況を伝える。

コーナーガイドンス⑤
家族と乗り越えた苦労の軌跡

戦後、傷痍軍人への政策が廃止され、経済的に苦難を強いられた。後遺症を抱えながらも、妻や家族の支えで人生を乗り越えてきた。それぞれに様々な労苦があり、それは現在に続いている。
 などの、ある兵士の手記と当時の社会的な概況を伝える。

3. 常設展示 展示構成シナリオ

2) コーナーガイダンス機能

- 大型映像ディスプレイを縦型に展示壁面に組み込んでコーナーの概要情報を展示する。
- 大型映像ディスプレイは、ある兵士の手記をはじめ、当時の概況を表示する。
- またタッチパネル仕様にする事で、展示に関する関連情報を来館者が選択し、ビジュアルや動画をはじめとしたより深い情報を得ることができることも検討する。
- タッチパネルはマルチモニター仕様とし、**①②**といった常に表示する情報と**③**選択型情報を同時に表示できるようにすることで複数の来館者が同時に展示体験できるようにする。

3) コーナーガイダンスでの情報表示例

「戦地へ向けて」を例に

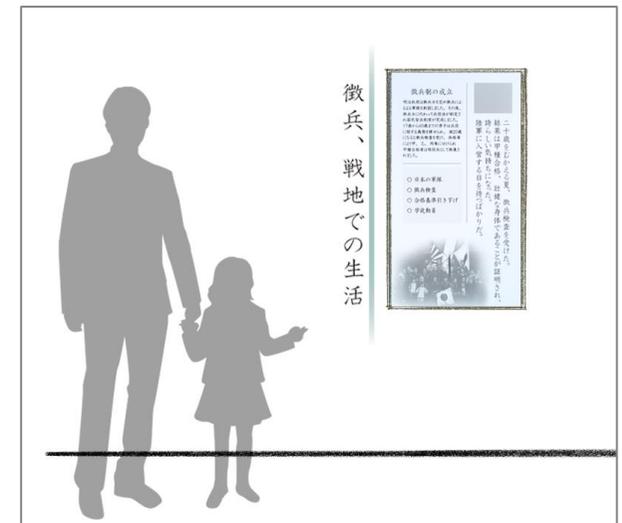
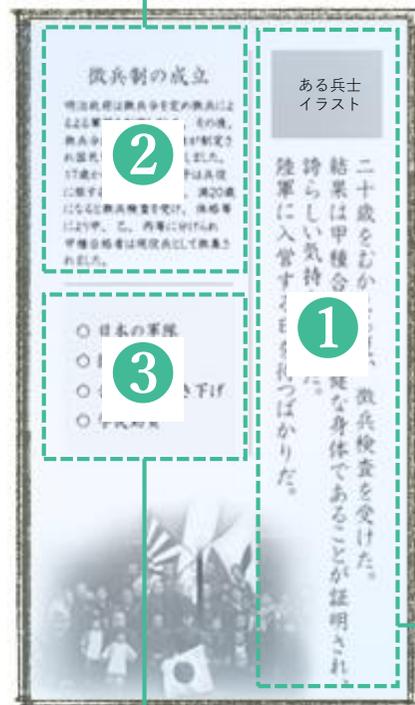
② 時代概況紹介

明治政府は徴兵令を定め徴兵による軍隊を創設しました。その後、徴兵令に代わって兵役法が制定され国民皆兵制度が完成しました。17歳から40歳までの男子は兵役に服する義務を課せられ、満20歳になると徴兵検査を受け、体格等により甲、乙、丙等に分けられ、甲種合格者は現役兵として徴集されました。

③ 社会データ(選択型)

- 日本の軍隊
- 徴兵検査
- 合格基準引き下げ
- 学徒動員 など

徴兵、戦地での生活



① ある兵士の手記

二十歳をむかえる夏、徴兵検査を受けた。結果は甲種合格、壮健な身体であることが証明され、誇らしい気持ちになった。陸軍に入営する日を待つばかりだ。

3. 常設展示 展示構成シナリオ

4) 「ある兵士」の設定案

- 兵士の手記では、架空のある若き兵士の物語を設定し、イラストを使った人物像描写やプロフィールを設定することで、来館者により身近な存在として感じていただく。
- ある兵士イラストは、シンプルなイラストタッチから、リアリティを感じる写実的なイラストタッチ、若者が親しみを感じやすいコミックタッチといった複数のイラスト表現を検討中。

ある兵士プロフィール案

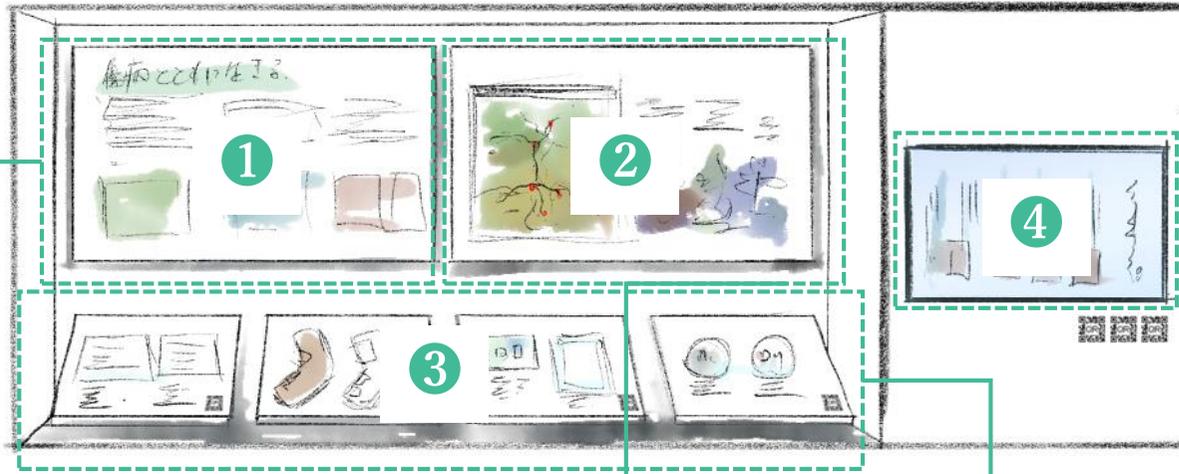
1921（大正10）年	農家の長男として生まれる。
1939（昭和14）年	夏、20歳で徴兵検査を受ける。 甲種合格、陸軍へ入営する。 訓練を受け、中国へ派遣されることが決まった。
1940（昭和15）年	21歳、戦闘で右太ももを銃弾が貫通する野戦病院で手当てを受けるが、後送中にガス壊疽を発症しており、軍医によって切断手術を受ける。 その後、日本へ送還される。
1942（昭和16）年	臨時東京第一陸軍病院へ収容され、治療、リハビリに励んだ。 22歳退院（除隊）、恩賜の義足を受け取った。 帰郷、実家の農業を手伝った。
1943（昭和17）年	23歳、お見合い結婚、翌年には長男が生まれた。 義足で農業に励んだが、後遺症に悩まされた。薬代がかさんだ。
1945（昭和20）年 8月15日終戦	26歳、恩給が停止され、生活が困窮した。
1955（昭和30）年	36歳、農業用トラクターを買うために借金した。 片足の不自由を補うためにトラクターは無くてはならないものだった。

3. 常設展示 展示構成シナリオ

5) 各コーナー内の展示項目における展示手法

- ①背面にはコーナーの概要を伝える解説パネルと②写真スケッチ、地図などのビジュアル情報を使いわかりやすくコーナーを解説する。
- ③見るだけで実感をしやすい実物資料を展示し、来館者に「感じていただく」展示とする。またQRコードを設置し、詳細情報や動画解説をスマートフォンやタブレットで入手できるようにする。
- ④実物資料で感じてもらい、④関心がある情報を検索し「知っていただく」。資料の解説や当時の社会状況などの図表、証言などを検索ディスプレイで展開。タッチパネル仕様にする事で、展示に関する関連情報を来館者が選択し、ビジュアルや動画をはじめとしたより深い情報を得ることができる。

「傷病とともに生きる」
を例に



① 解説グラフィック

コーナーの言葉解説

「生活は改善されていったものの、後遺症、後発性障害との闘い、(中略)家族の支えはなくてはならないものだった」など

傷病の解説

- 盲管銃創による患部の悪化
- 頭部受傷によるてんかん等の後遺症
- 珪肺症の発症 など

② 写真、スケッチ

(実物資料複製)、地図

シベリア珪肺の鉱山地図(ソ連)、炭坑削岩手のスケッチ、顔面損傷の写真、レントゲン写真(トロトラスト使用)など

③ 実物資料

(一部体験型展示)

摘出弾、補助具、酸素ボンベ、発作記録簿など
体験型展示はレプリカを作成。

※体験展示の導入個所、手法等については、コレクション展示室含め展示室全体で、今後詳細を検討する。

④ 選択型解説ディスプレイ

(一部グラフィック)

タッチパネル
(見学者が選択する)

- 手記 3~5名分
実際の体験の手記、写真
※現めくり証言台(ある兵士ではなく、展示項目の内容を綴った体験記の抜粋)
- 解説映像
寄贈資料(映像)や、解説映像
- 実物資料写真、解説
トロトラストの概要、シベリア珪肺の概要などの詳細な説明や、頭部損傷の診断書など紙資料の解説
- 関連資料の写真
展示資料以外の関連実物資料の写真と解説
- 証言映像
ダイジェスト版の上映

3. 常設展示 展示構成シナリオ

6) 展示シナリオ (1. イントロダクション)

コーナー	展示項目	概要	手法案
イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン	コーナー ガイダンス① 傷ついた 若き兵士の物語	<p>明治期から昭和期にかけて、日本は、いくつもの戦争を経験してきた。本イントロダクションでは満州事変、日中戦争、太平洋戦争などの戦争の概要を伝える。 (先の大戦の概要紹介映像は既存の公的映像資料を活用することを想定)</p> <p>戦時中、私たちは国のために働くことが求められた。男性は徴兵され、戦争末期になると学生も兵士として動員された。勤労動員として中学生や若い女性も軍需工場で働き、既婚女性は健康な男子を産み育てることが求められた、などの当時の国民と戦争に関する概要を伝える。</p> <p>兵隊は勇ましくてカッコよいということが自然に子供心に受け止められ、徴兵検査での甲種合格を自慢する時代でもあった、などの当時の一般的な価値観を伝える。</p> <p>これはこの時代から現在を生きる「ある兵士の生涯の物語である」 ある兵士の足跡とともに、その時代を巡っていくこととなる兵士のプロフィールを伝える。 徴兵、兵士としての軍隊経験、受傷、治療、戦後の暮らしなどを映画の予告編的な魅せ方で構成する。</p>	コーナーディスプレイ (オートスライド及び選択型) 多目的ルームでの映像 個人利用用の ディ스플레이等検討

3. 常設展示 展示構成シナリオ

6) 展示シナリオ (2.戦地へ向けて)

コーナー	展示項目	概要	手法案
戦地へ向けて	コーナー ガイダンス② 徴兵、戦地での生活	ある兵士の手記「二十歳をむかえる夏、徴兵検査を受けた。甲種合格となり入営の日を待つばかりとなった。戦地に派遣されると、日本での生活とは異なる過酷な日々が続いた。昼はジャングルに潜み、夜は道なき道をゆく、もう何ヶ月も満足に食べていない」などの徴兵から入営、出征、戦地での生活の様子を紹介する。徴兵検査を甲種で合格すると、本人だけでなく母親も表彰された。入営や出征は家族や地域から期待と祝意で受け止められる時代であった、などの当時の社会的な概況を紹介する。	コーナーディスプレイ (オートスライド及び選択型)
	徴兵	徴兵検査の写真、検査結果表、甲種合格の表彰状、回想記に記された徴兵検査の思い出などを展示し、本人にとっての徴兵検査の意味合い、世間の甲種合格の受け止め方などを感じてもらう。 徴兵検査の概要(陸軍身体検査規則)、「徴兵検査受検人員と現役徴集兵の割合」などを通して、大戦末期には徴兵検査の年齢や基準が引き下げられ、徴集人数が増えていったことなどを知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	入営	着物や青年団服を脱いで憧れの軍服に着換える写真や、現役兵證書(入営命令)、祝入営の幟旗、銭別受取帳、お守りなどを展示し、無事を祈る家族の気持ちや、地域からの応援、励ましなどを感じてもらう。 「兵役制度の概要」(兵役期間)、徴兵区の図、「軍隊の編成」などを通して、軍隊組織の概要や、現役兵だけでなく、戦時体制下で臨時召集される予備役、第二国民兵役等の兵役の概要も知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	出征	出征兵士と母の別れの写真や、入隊証明書、應召行動予定表、遺言状、遺髪(爪)、千人針(帽子)、奉公袋、軍隊手牒(陸軍)、履歴表(海軍)、軍装品などを展示し、戦地に向うための準備の様子や、覚悟を決めた本人の思いを感じてもらう。 「徴兵・志願兵・召集兵数」、軍服・装備品の解説などを通して、出征時の状況を知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	戦地での生活	日記、戦地での生活の様子や、慰問袋に喜ぶ兵士たちの写真、家族にあてた軍事郵便葉書、軍馬の給水・給餌袋、ヤシの実の水筒、飯盒などを通して、食料水確保の厳しさ、苦楽を共にした軍馬への思い、そうした生活の中で内地とつながる手紙や慰問袋が慰めだったことなどを感じてもらう。 陸海軍の兵種と役割の解説、昭和12(1937)年～昭和20(1945)年の地域別戦闘(地図)などを通して、戦域の拡大、日本からの距離などを知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック

3. 常設展示 展示構成シナリオ

6) 展示シナリオ (3.戦地での受難、治療)

コーナー	展示項目	概要	手法案
戦地での受難、治療	コーナー ガイダンス③ 受傷、治療	ある兵士の手記「夜襲命令で突撃したその瞬間全身に激痛が走った。野戦病院に移され、受傷した足が悪化し切り落とされることになった。麻酔もなく、身体をおさえつけられて激痛に耐えた。衛生兵に励まされながら、後方にある兵站病院へ搬送され、病院船に乗ることになった」などの、受傷から治療と搬送、野戦病院での治療を紹介する。また、傷病兵の搬送体系（仮繃帯所～野戦病院～兵站病院～病院船）と治療の概況を紹介する。	コーナーディスプレイ (オートスライド及び選択型)
	受傷	戦友に助けられる負傷兵の写真や、止血に用いた鉢巻・日章旗、摘出弾、受傷時の戦況図（スケッチ）、受傷時に停止した腕時計、事実証明書、診断書、などを通して、受傷時の状況を感じてもらう。 戦傷・戦病の具体的な説明、戦傷病の定義、戦傷病の発生件数や割合など内訳、「陸軍地域別損耗統計」、「戦傷者の受傷原因別割合」、「地域別戦病発生状況」、「海軍戦病者の推移」、栄養失調の兵士（スケッチ）などを通して、戦地での具体的な受傷病の状況を知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	受傷の瞬間	軍帽、メガネ、煙草ケース、鞆、軍長靴など、穴の空いた資料から受傷の瞬間を想像してもらう。	実物資料（自立ケース）
	救護・収容	戦場での救護体験スケッチや、手製止血器具、負傷兵につけられた札、繃帯、ガーゼなどを通して、衛生兵による処置や、負傷兵も自ら応急処置を行っていたなどの戦場での救護の様子を感じてもらう。 戦傷病者の収容体系の図、陸軍の衛生機関組織、第53師団の野戦病院開設箇所（地図）などを通して、軍の治療体制や実際の収容、治療の状況を知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	野戦病院	野戦病院のジオラマ。衛生兵に支えられて歩く負傷兵、救護された負傷兵、麻酔なしでの切断手術、赤痢やガス壊疽により重体となり生死をさまよう兵士の各人形から、実際の野戦病院の状況を見てもらう。ナレーションは「野戦病院へ」、「手術」、「生死をさまよう」の流れで紹介するプログラムで構成し、ナレーション解説から各人形の直面している状況を知ってもらう。	ジオラマ ナレーションと連動する照明
	戦地での医療	病院のスケッチや、軍医の手記、従軍証明書、摘出弾、受傷箇所を描いた軍事郵便、診断書、回想記などから、兵站病院の様子や搬送の過酷さを感じてもらう。 「受傷後の足取り」（5名の年表）を通して、受傷時期や受傷病の程度により、原隊復帰や内地還送、2度目の召集で受傷、終戦後の捕虜・抑留中に受傷など、事例が多様であったことを知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック

3. 常設展示 展示構成シナリオ

6) 展示シナリオ (4.搬送、戦時下の療養生活)

コーナー	展示項目	概要	手法案
搬送、 戦時下の療養生活	コーナー ガイダンス④ 戦時下の療養生活	ある兵士の手記「病院船の中は負傷兵でいっぱいだ。故郷の家族は片足を失った私をどう見るだろうか。そう思う一方で、今も戦地で戦っている戦友や、野戦病院で赤痢に苦しんでいた戦友の姿が頭をよぎる。再び土を踏んだが、自分の身体は以前のものではない。義足での歩行訓練がづらい」などの、陸海軍病院での治療、リハビリの様子、傷痍軍人への援護政策、再就職支援、結婚斡旋などの国や社会の支えを紹介する。	コーナーディスプレイ (オートスライド及び選択型)
	搬送・病院船	治療の様子の写真、搬送手段（手術用自動車、94式患者自動車、病院列車など）の写真、病院船氷川丸の模型、昼夜の航行風景、船内の手術室・病室再現の模型などを通して、搬送と病院船の状況を感じてもらう。 病院船氷川丸航路図、艦装の解説、病院船氷川丸の映像、病院船となった船舶の絵画などを通して、病院船の状況を知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	戦時下の療養生活	義足での歩行訓練、錬成大会、職業訓練などの写真や、恩賜の義肢・義眼、下賜御沙汰書、職業訓練で制作した財布、日記などを通して、療養生活の様子や社会復帰のための訓練の状況を感じてもらう。 戦時下の治療・療養の流れ（図）や、傷痍軍人療養所の一覧、陸軍病院分布図などから、傷病別に傷痍軍人の治療と療養の体制や制度を知ってもらう。また、脊髄損傷者を専門に受け入れた箱根療養所の資料を多く所蔵しているので、箱根療養所の歴史年表や沿革映像も取り上げる。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	退院後の社会復帰	「援護の光に輝く更生」や、「護れ傷兵」のポスター、軍人傷痍記章、傷痍軍人証明書、軍人傷痍記章臨時授與證書、就職先を紹介する葉書、戦傷奉公杖授與證書、作業用義手、白衣（病院着）などを通して、傷痍軍人が手厚く保護されていた状況を感じてもらう。 各種恩給と障害程度の一覧、各種証明書、無賃乗車券など社会生活で受けられる優遇政策の解説、などで社会生活の様子を知ってもらう。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック

3. 常設展示 展示構成シナリオ

6) 展示シナリオ (5.家族とともに)

コーナー	展示項目	概要	手法案
家族とともに	コーナー ガイダンス⑤ 家族と乗り越えた苦勞の軌跡	ある兵士の手記「昭和二十年八月十五日、戦争が終わった。退院して故郷に戻った。誰もが生きることには精一杯だった。国の支えを失った私も、家族を支えるため、傷の痛みに耐えながらも懸命に働いた。私たちは、癒えることのない傷を抱えながらも家族や良き仲間を支えられ戦後を生き抜いてきた」など、戦傷病者の長い戦後の歩みには、それぞれにさまざまな労苦があり、それは現在に続いているなどの状況を紹介する。	コーナーディスプレイ (オートスライド及び選択型)
	生活の困窮	街頭募金の写真や、戦後の混乱により恩給支給の遅れを知らせる通知、恩給受給見込証明書、働けないことを示す診断書、課税に関する嘆願書、点字の手紙などを通して、国の体制が変わったことや、恩給停止に伴って経済的に苦しい状況となったことを感じてもらう。 「軍人恩給の廃止を命じる総司令部覚書」、白衣募金の実態調査の結果などを通して、軍人に対する恩給が廃止され、傷痍軍人への保護もなくなったことなどを知ってもらう。 質札、症状経過書、手記などを通して、経済的に生活が厳しかった状況を知ってもらう。義肢、補助靴、片足踏みペダル自転車などを通して、不自由な身体でも懸命に働いたことなどを感じてもらう。 対日講和条約の発効、戦傷病者戦没者遺族等援護法の制定、軍人恩給の復活など、戦後の援護政策が進められ、その政策は今に繋がっていることを示す年表や政策の概要、高度経済成長期に入り社会が安定していく中でも戦傷病者の就職や生活が不安定であったことを紹介する。	実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック 実物資料、写真 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	傷病とともに生きる	摘出弾、上肢補助器具、診断書、発作記録簿、トロトラスト検診通知書、手記などを通して、戦後20年以上が過ぎても、後遺症や後発障害に苦しむ、亡き戦友への思いが消えないことなどを感じてもらう。 切断、頭部損傷、マラリアなど病気の傷病別の後遺症の事例と解説、シベリア珪肺など後発障害の事例と解説、トロトラストなど薬害の事例と解説、戦争神経症などの情報で、長い月日が過ぎても労苦は続いていることを知ってもらう。	実物資料 解説ディスプレイ 一部グラフィック
	ともにのりこえて	脊髄損傷者が入所していた箱根療養所を紹介する。入所者は常時医療ケアが必要だったため、社会復帰や就労が困難であったが、本人と家族がひとつの大きな家族となり支え合って生活を送っていたことを、入所者の作った竹製品、生活記録簿、箱根式車いすを通して感じてもらう。また、パラリンピック関連資料、皇太子・同妃殿下のご来訪記念トロフィーなどを通して、1964年以降の生活意欲の向上の影響なども紹介する。 戦傷病者は、戦中・戦後を通して労苦を克服するために努力を重ねてきた。その傍らには、いつも妻や家族、仲間の存在があった。最後に、家族や仕事仲間、友人らとの写真、仕事道具、回想記などを通して、妻や家族の労苦、傷病をのりこえるための工夫と努力、労苦を共にし支えた人たちの言葉、戦傷病者同士の支え合い、自立して生きていることへの思いを感じてもらう。	実物資料、写真 グラフィック、映像 実物資料、写真 グラフィック、映像

4. ホームページコンテンツ基本構成

(1) ホームページの基本情報

1. 利用案内

- 総合案内
- 交通案内
- 休館日等

4. 団体見学案内

- 団体見学案内
- 予約・申込み方法
- 学校関連情報
(先生に向けた案内、見学校一覧等)

7. インフォメーション

- サイトポリシー
- 館だより
- 貸し出しキット案内
- 資料収集に関するお願い
- よくある質問
- その他のお知らせ

2. 施設案内

- 沿革
- 施設案内
- 常設展示紹介
- 図書閲覧室案内
- その他利用施設案内
- 紹介ムービー

5. 活動紹介

- 語り部事業
- その他活動

8. 英語情報

施設利用にかかわる基本情報部分については英語での情報を提供する。

3. 企画展、イベント

- 企画展（館内、館外）
- イベント（館内、館外）
- これまでの企画展・イベント情報
- 企画展、ミニ展示、地方展紹介

6. アーカイブ

- 図書検索
- 証言映像検索
(動画提供はなし解説データのみ)
- ライブラリー（動画含む）
(過去の企画展・イベント、語り部講話など)
- 来館者の声

9. SNSによるインフォメーション

- Twitterによる施設案内、催事案内
- Facebookによる施設案内、催事案内
- Instagramによる施設案内、催事案内
- YouTubeによる動画配信
(語り部講話、展示解説、企画展紹介等)

4. ホームページコンテンツ基本構成

(2) ホームページ・リニューアルの基本方針

1) 若い世代に的確に情報提供ができるように仕様、コンテンツを再編する

- ①レスポンシブルデザインを採用する。
- ②来館のための情報提供に留まることなく、家庭や学校で（来館せずとも）当館の提供情報を効果的に活用できるコンテンツを拡充する。
- ③特に常設展示のコンテンツは、ホームページコンテンツ単独でも、リアル展示と連動しながら、より深い情報や理解が得られるような新しい形式のコンテンツ構造を検討する。

2) SNSの活用に関しては、当該施設が扱う情報の種類

（戦争体験情報、個人情報、更新情報の多寡等）に留意し、実質的效果を専門的に判断した上で採用する

- ①Twitter、Facebook、Instagramの利用に関しては、各メディアの利用層の推移やメディア特性と当館で提供可能な情報の内容、頻度等を勘案し採用を検討する。
現状では上記3種のSNSで館の案内、催事情報をこえた日々の活動情報などを提供するような利用については、必ずしも有効とはいえず、YouTubeによる動画配信が実現可能性が高く、効果が見込めると考えている。

4. ホームページコンテンツ基本構成

(2) ホームページ・リニューアルの基本方針

3) 情報の公開のための戦傷病者個人情報公開の基準整備と共に動画情報の拡充を積極的に行う

- ①所蔵する資料や記録した証言映像等の戦傷病者の労苦に関する貴重な資料を後の世代に引き継いでいくため、それら資料のインターネット等の情報インフラを通しての一般公開方法について、著作権、個人情報等を含む法務、博物館等施設情報管理、情報セキュリティ等の観点から内部規程を策定する。
- ②語り部講話、企画展・その他催事の学芸員による解説を中心に、館の活動を動画コンテンツにまとめ積極的に発信する。
- ③学校などとリアルタイム・ネットワークで結んだリモート活動（リモート展示解説、リモート語り部講話、リモート外部授業など）の実施を可能とする設備、人材、コンテンツ等を整備する。

※上記取り組みにおいて、移転と同時に実施することが困難なものについては、移転後も継続して検討し、段階的に実施していく。

4. ホームページコンテンツ基本構成

(3) 常設展示ホームページコンテンツの構成案

1) 常設展示のホームページコンテンツの役割

- リアルな展示室で公開（提供）しきれない情報の提供
- 来館の予習・復習的情報収集、学習に寄与する情報の提供
- 来館しなくとも常設展示の内容が理解できるコンテンツの提供
- ホームページコンテンツ単体として戦傷病者の労苦を理解できるコンテンツの提供

2) コンテンツの情報内容

- ① 「傷ついた若き兵士」についてのさらに詳しい物語情報
- ② 時代の背景情報や当時の社会情勢を理解するための歴史、統計などのマクロ情報
- ③ 展示品に関連した補足情報や、展示品と関連のある収蔵品情報などの周辺情報

4. ホームページコンテンツ基本構成

3) コンテンツの構成案

- ・ 常設展示の展示項目（徴兵、戦地、受傷、生活の困窮等15項目）を軸に、上記①～③の情報を階層的に配置して、サイト来訪者の興味に応じてどこからでもアクセスできる構成とする。

1. 「傷ついた若き兵士」のショートムービー

- ・ 常設展示の展示項目（「イントロダクション」～「ともにのりこえて」の全15項目）の展示テーマに沿った若き兵士のショートムービー15話を制作する。
- ・ ショートムービーは、選定した若き兵士のキャラクターの特徴に合わせ、アニメーションやイラスト動画、あるいは4コマ漫画などのいずれかで表現する。
- ・ 個々のショートムービーは短いエピソードとして独立して成立しており、1話だけやランダムに視聴しても理解ができる構成とする。

（頭から順を追って視聴すると、若き兵士が徴兵され戦地に行き、受傷し、傷ついた体で日本に戻ってくる。戦後、戦傷病者として幾多の苦労を経験するも、温かい家庭を築く。そして、老齢となり命が尽きる最後の日に苦しくも幸せだった人生を振り返るという戦傷病者の半生の物語の全編を通して理解できる仕組みとする。）

2. 時代概況などの背景情報

- ・ 当時の社会情勢や戦況などの資料映像や解説情報など

3. 展示品周辺情報

- ・ 展示陳列されている実物資料の解説情報や、関連の収蔵品の画像情報など

4. ホームページコンテンツ基本構成

(4) 常設展示ホームページコンテンツの構造

